

「柏崎の橋」 45 早瀬橋

早瀬橋は高柳町岡田地内、鯖石川に架かる橋で、国道252号線(柏崎会津若松線)の一部である。



国土地理院発行
2万5千分の1地形図
『岡野町』
平成15年発行を掲載

郷土史家である関甲子次郎が著した『刈羽郡案内』には、「はやせ橋、小坂橋、平井橋、天保橋、安政橋は鯖石川に架せるもの」とあり、同書が刊行された明治38年にはこの橋が名の知れた存在であったことがわかる。

橋はその後、昭和9年度国庫補助金を受けて架け替え工事が行われ、昭和11年10月に永久橋となった。橋は高柳村で初めての鉄筋コンクリート造りで、当時の越後タイムスでは「郡内唯一のモダン鉄橋」と評された。また、『村合併五十年史』には、荻ノ島の五月橋、岡野町の鯖石橋と併せて三大鉄筋橋の一つと記されている。構造は下路式鋼鈹桁橋、橋長約21mであった。また、銀行の初任給(大学卒)が70円であるこの時代、橋の工費は8,500円であった。

橋の竣功式は、同年10月25日、岡田小学校において盛大に行われた。当時の写真には、国旗

を手に人々が沿道に集う姿や、鼓笛隊が演奏する様子が収められている。同夜には、百数十発の花火が打ち上げられ、歓喜に沸いたという。

橋を通る道は当時県道であったが、昭和37年国道252号線に昇格した。これに伴い道路の改良工事が行われることとなり、早瀬橋も昭和45年5月から架け替え工事が行われた。新しい橋は、2,066万円の事業費が投じられ、同年11月に完成、橋長約61m、幅8mと以前より大きい橋となった。架け替えの際には川幅を広くするため、橋付近の住宅5軒ほどが移転した。

早瀬橋は、柏崎と高柳・十日町方面を結ぶ重要な役割を担い、高度経済成長期を支えた。今も変わらず、私たちの暮らしを支えている。



現在の早瀬橋 工事の様子 向かって右が旧早瀬橋
(『たか柳 想懐』(224 タカ) 高柳町編より)

●参考にした本

『高柳町史』(224 タカ) 高柳町史編集委員会編
『村合併五十年史』(224 タカ) 新潟県刈羽郡高柳村編
『年表高柳町昭和史』(224 タカ) 村田 徳雄 著
越後タイムス 柏崎日報